

2018年度 日露青年交流センター 日本語教師派遣事業

# 帰国報告書



# 極東連邦大学

2018年9月～2019年7月

東 康太

## 1. 年間業務日程

---

- 2018年 9月18日 着任  
10月1日 前期授業開始  
5日 第23回 極東・東シベリア日本語弁論大会（於 ハバロフスク）  
6日 同 教師セミナー  
11月17日 第4回 日本フェスティバル「日本の秋」  
12月2日 日本語能力試験  
22日 ウラジオストク日本語教師サークル 定例会
- 2019年 1月25日 前期授業終了、ザチャット週間  
2月5日 エグザメン実施日  
25日 後期授業開始  
3月6日 夜間講座授業開始  
27日 日露青年交流センターウラジオストク将棋チェス文化交流プログラム訪問団  
来訪対応  
4月6日 ウラジオストク日本センター スピーチコンテスト  
5月18日 第26回ウラジオストク日本語弁論大会  
6月22日 第7回 着物ショー  
24日 後期授業終了、ザチャット週間  
7月17日 年度終了、離任

## 2. 赴任校の概要

---

### 2-1. 大学概要

- ①大学名: 極東連邦大学  
・ Дальневосточный Федеральный Университет (ДВФУ)  
・ Far Eastern Federal University (FEFU)
- ②学長名: アニシモフ・ニキータ・ユーリエヴィチ  
・ Анисимов Никита Юрьевич / Nikita Y. Anisimov
- ③学部・学科名: 東洋学院・地域国際研究スクール 日本学科  
・ Восточный институт - Школа региональных и международных исследований, Кафедра японоведения  
・ Institute of Oriental Studies - School of Regional and International Studies, Japanese Studies Department  
※ 学部を表す「школа/school」は、書類等記載時に「スクール」と表記することが学科で定着しているため、それに準拠した。
- ④所在地: 690922, Россия, Приморский край, о. Русский, п. Аякс 10, кампус ДВФУ  
FEFU Campus, 10 Ajax Bay, Russky Island, Vladivostok, 690922
- ⑤電話番号: +7(423)265-24-24（日本学科: 内線 2933）
- ⑥国際部担当者: Aleksandra I. Simonova (ビザ・在留登録担当) Tel: +7-423-265-24-24 (内 2208)

### 2-2. 学部・学科

- ①日本語教育コース設置年(改称・改編年)  
1899年 東洋学院  
1962年 極東国立総合大学 東洋大学 日本学部 ※東洋学院改編

1996年 極東国立工科大学 東洋学部 日本学科 ※現「通訳・翻訳コース」

2014年 極東連邦大学 東洋学院・地域国際研究スクール 日本学科

## ②日本語コース責任者

東洋学院・地域国際研究スクール兼日本学科学科長

Поствоит・Евгений・Валерьевич

Директор ВИ-ШРМИ и заведующий кафедрой японоведения

ПУСТОВОЙТ Евгений Валерьевич

Director of Institute of Oriental Studies and Department of Japanese Study

PUSTOVOIT Evgenii Valerievich 電話番号: +7 (924) 338-68-15

## ③日本語コースカリキュラム

- \* 2010年より沿海地方4大学の統合が進められ、2011年に旧極東総合大学を基盤として「極東連邦大学」がルースキー島に設立された。
- \* 日本学科の所属は、「地域国際研究スクール」から、2014年に「東洋学院・地域国際研究スクール」へと改称され、現在に至る。
- \* 同学科は、(ア)日本語を主専攻とする旧「極東国立総合大学 東洋大学」と、(イ)旧「極東国立工科大学 東洋学部」の各コースにより構成されている。この二つの旧大学の流れを汲むコースは現在でもそれぞれ独立して開講されており、カリキュラムも異なっている。
- \* (ア)は、日本経済学(эя)、日本史学(ся)、日本言語・文学(фя)の3つのコース分けがあるが、カリキュラムの改編により入学学年によってコースが固定されている。日本語及び各コースの専門科目のほか、英語、体育などの科目がある。
- \* (イ)は、通称「軍隊クラス」と呼ばれ、卒業後は大半の学生が軍に入隊する。カリキュラムは日本語のほか、英語や歴史などの専門科目、基礎科目、軍事教練等が含まれる。

## ④日本語履修学生数

※ [ ] は報告者が担当

学科・コース	1年	2年	3年	4年	5年	計
(ア) 日本学科 (主専攻・必修、旧総合大学)	83	48	29※	30※	—	190
(イ) 軍隊クラス (主専攻・必修、旧工科大学)	5	0	5	3	7	20
(ウ) 地域国際研究スクール (第2外国語)	12	20	15	12	—	59
(エ) 海外地域研究学科 (選択科目)	—	—	—	4	—	4
(オ) 接客・観光学科 (選択科目、他学部)	19					19
(カ) 海外地域研究学科大学院 (選択科目)	8					8
						300

※ 日本学科3・4年生には別途で8人が日本留学中(留学届申請ベース)。

### 【報告者の担当クラス及び人数】

\* 日本学科3年生: 前期 45名、後期 29名

\* 軍隊クラス3年生: 前期 5名

⑤履修学生のレベル

※   は報告者が担当

学科・コース	1年	2年	3年	4年	5年
(ア) 日本学科	初	初中	中	中上	—
(イ) 軍隊クラス	初(前)	—	初中	初中	初中～中
(ウ) 地域国際研究スクール	初(前)	初(中)	初(後)	初中	—

⑥日本語教師数: ロシア人 19名(うち2名が休職中)、日本人 3名(現地・JF・日露)

⑦卒業後の進路

- \* 大学院進学、日本留学、ロシア国内企業(在露日系企業含む)、日本での就職(インターン含む)、ロシア官公庁、日本国総領事館職員、空港職員、通訳・ガイド、中高・大学教師、軍人など。
- \* 後期には当地の日本企業から声が掛かり、日本学科4年生を中心に面接を受け、1名が内定した。また、当地ではないが在露日系企業の採用面接の打診もあった(報告時点で採否未定)。

3. 赴任者の日本語教育業務

3-1. 学年、年間のシラバス

①日本学科 3年生(前期) 45名・3クラス

課目名	Японский язык по профессиональной сфере (専門分野の日本語)
時間数	週7コマ。うち4コマをロシア人教師、3コマを報告者が担当。
使用教材	にほんご敬語トレーニング、留学生のための読解トレーニング、自作教材、ニュース動画等
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 会話2コマ + 読解1コマで構成。</li> <li>* 通期で授業のはじめに数字の聞き取りを実施。</li> <li>* 会話では、月に1つ大きなテーマを決め、そのテーマに沿ったニュース動画や記事を使い、語彙や表現の学習および活用練習、リスニング、学習した語彙を使って自分の意見を述べる/書く授業を行った。</li> <li>* テーマ: 10月は「仕事」(就職活動、待機児童問題、サービス残業、過労死、ワークライフバランス等)、11月は「地域」(日本8地方区分、過疎化・東京一極集中、地価、限界集落、UJI ターン、平成の大合併、コンパクトシティ、方言の特徴)、12月は「冬のイベント」と「間違いやすい文型」(冬のボーナスとお年玉、「年賀状、今年を出す?」、俳句を詠んでみよう、「ラレル」と「コトガデキル」、目に関する慣用句)。</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ザチョット/エグザメン並立制。前者はロシア人教師、後者は報告者担当。</li> <li>* エグザメンの成績評定は「自動採点(アフタマツ)」または「本試験(エグザメン)」によって決定。後者はその試験の点数のみで評定を出す。</li> <li>* アフタマツの配点: 出席 35、授業態度 5、課題・発表 20、小テスト 40</li> </ul>
所見	* クラスは A,B,B があるが、おおむね順番に少しずつレベル差がある。ただ、3クラスともクラス内のレベル差は少なく、授業についてこれなくなる学生は少数だった。授業態度も良好で、出席率・宿題の提出率ともに高い。

②日本文科 3年生（後期） 29名・3クラス

課目名	Японский язык по профессиональной сфере（専門分野の日本語）
時間数	週7コマ。うち4コマをロシア人教師、3コマを報告者が担当。
使用教材	わかる!話せる!日本語会話 基本文型 88、ニューアプローチ 中上級日本語、ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話、日本語文法演習 時間を表す表現 -テンス・アспект-、ニュース動画 等
授業内容	<p>①数字の聞き取り（通期）</p> <p>*前期は単語ごとの数字を聞き取らせたが、後期はニュースや統計の文章を読み、どんな項目でいくら/どのくらいなのかを聞き取らせた。</p> <p>②語尾表現・副詞表現の使い方・使い分け+会話練習（2～5月）</p> <p>*「わかる!話せる!」の表現の練習を中心に使用し、既存文型の活用や類似表現の使い分けを意識させながら、「ニューアプローチ」の談話練習を用いて実践に繋げた。</p> <p>*ロシア人教師が読解を中心に文法・語彙・漢字を凄まじい勢いで叩き込んでいるため、報告者の授業や宿題での例文作成やロールプレイングではその既習事項を活用するよう学生に伝え、実践した。</p> <p>③テンス・アспектの使い分け（6月）</p> <p>*「する/した」「している/していた」を中心に、時間やアспектの表現の違いを掘り下げた。</p> <p>*学期はじめにセメスター全体の到達目標を発表。</p> <p>①日本の実際のニュースを見て、数字が聞き取れるようになる</p> <p>②自分の感情や話者の背景を考慮した語尾・副詞表現の実践</p> <p>③会話の「クッションワード・フレーズ」の習得・運用</p>
評価	<p>*ザチョット/エグザメン並立制。報告者はザチョット担当。</p> <p>*配点: 出席 45、課題 5、小テスト 20+30。61点以上で合格。</p> <p>*小テストはループリク的に評価基準を事前に学生に告知し、回答には項目ごとの点数と解説を全員に付けて返却した。</p>
所見	<p>*合計17名が留学に行き(公式に留学申請を出したのは8名)、逆に留学から帰ってきた学生6名がB,Bグループに入った。これにより、B,Bグループ内で若干のレベル差が生じたが、個々人のモチベーションを左右するほど大きな影響には至らなかった。</p> <p>*前期の反省をいかして会話中心の授業を組み立てたところ、学生からの評判もよく、ロシア人教師の授業での学習内容も活かされたため非常に良かったと感じる。</p>

③軍隊クラス 3年生（前期） 5名・1クラス

課目名	Устный перевод（口頭通訳）
時間数	週4コマ。うち3コマをロシア人教師、1コマを報告者が担当。
使用教材	INTERMEDIATE JAPANESE、ニュース動画
授業内容	① 動画を使った数字の聞き取り ②ダイアログ音読、語句の確認 ③新出文

	法の説明+例文作成課題 ④運用練習の実践 ⑤質疑応答、宿題の提示
評価	未実施
所見	<p>* 5名と小規模かつ全員男子学生であり、非常にやりやすい雰囲気です。授業を行うことが出来た。学習態度は良好で、よく質問をし、ペアワークにも積極的。宿題の実施率も高かった。</p> <p>* 国際交流基金から新しい先生が着任されたことから、12月の初回の授業をもって再度担当教師が変更となった。</p>

### 3-2. 個人指導・課外指導

#### ① 夜間講座 日本語初級（後期） 10名・1クラス

\* 学内の公開講座を前期のロシア人教師から引き継いで実施した。

時間数	週3コマ。全コマを報告者が担当。
使用教材	みんなの日本語（本冊、問題集、漢字練習帳）、まるごと
授業内容	<p>* みんなの日本語 16～25課</p> <p>* ①導入・文法解説、②パタプラ・問題演習、③「まるごと」を用いてのコミュニケーション演習、④聴解+読解のローテーションで各課を実施。宿題として漢字教材の配布。</p> <p>* 日露合同授業（5-1に詳述）はこの授業の時間に実施し、実際の日本人とのコミュニケーションの場とした。</p>
評価	評価なし（出席、授業態度、課題提出の集計は実施した）
所見	<p>* 本学の他学部学生のほか、ウラジオ市内で働く一般の受講生もいた。平均年齢は22歳（19～25歳）。</p> <p>* 使用教材は、シラバス上は「ニチャエワ」が指定されているが、前任教師が「みんなの日本語」を使用していたため、そのまま継続。</p> <p>* 全体的にシャイで、積極性はあまりない。特にロールプレイやグループワークは教師側から手を入れないとなかなか動かない。授業態度は決して悪くなく、既習事項も理解はできており、クラスの大半はレベル差がないが、かなり出来る学生（シュコーラでの学習経験があり、N3を目指せる程度）と、ついてこられていない学生が各1名ずつおり、レベル設定には手を焼いた。最終的には遅れていた学生がかなり自習に努め、語彙は依然少ないものの授業には追いつけるようになった。</p>

② 推薦状作成： 8名対応

③ スピーチ指導： 3名指導（ハバロ大会1名、ウラジオ大会2名）

④ 日本センターでの日本語講座アシスタント

\* 10月から初級2クラスにて、週1～2回のペースで参加（月によってばらつき有）。

⑤ 日本学科学生への補習の実施

\* 1、3年生の学生からの依頼により、試験週間前に補習を実施した。

### 3-3. 日本語弁論大会への参加・開催

- ①2018年10月5日 第23回 極東・東シベリア日本語弁論大会・教師セミナー  
\* 報告者はタイムキーパーを担当
- ②12月14日 ウラジオストク日本センター日本語講座「歌のザチョット」  
\* 報告者は審査員を担当
- ③2019年4月6日 ウラジオストク日本センター日本語講座 スピーチコンテスト  
\* 報告者は審査員・第1部終了時の総評を担当
- ④5月18日 第26回ウラジオストク日本語弁論大会  
\* 報告員は減点調査員(時間超過、原稿を見た回数等)を担当
- ⑤9月27日 第24回 極東・東シベリア日本語弁論大会・教師セミナー  
\* 大会実施校として準備を進めている

### 3-4. 反省点と今後の展望

- \* 人生で初めての教室での授業だったため、10月当初は戸惑いばかりで前期は効率的な授業運営ができなかったと反省する。その分、後期は主軸となる教科書や目標設定がうまく立てられ、学生のアウトプットを中心とした授業展開が少しは出来るようになったと感じた。
- \* しかし、学期を通してどのくらい学習内容が身についたか、それを学生自身が実感できるかという視点が欠落していたと思う。報告書執筆時点では次年度も同じ3年生を担当する予定のため、夏季休暇の間に今年度をじっくり振り返って、カリキュラムを練っていききたい。
- \* 2019年度は、ウラジオ・サハリン・ハバロフスクで持ち回りの「極東・東シベリア日本語弁論大会」の担当年度である。参加する学生・教師が大いに交流・意見交換をし、知見を広げ、相互にモチベーションが高まる場となるよう運営準備に努めたい。

## 4. その他の業務

---

### 4-1. ウラジオストク日本語教師サークル

- \* 2017年12月に設立。今年度は12月20日に定例会を実施。
- \* 今年度は当地の初中等教育についてフォーカスが当てられ、3月31日には(公財)国際文化フォーラムが2018年度に実施した「日露交流学習プロジェクト最終報告会」を日本センターで見るパブリックビューイングの機会を設けた。

### 4-2. ウラジオストク市内初中等教育機関訪問(4校)

- \* 学期末の休暇を活用して市内の4校を訪問し、担当教師等から学校の特徴や日本語教育をとりまく現場の状況について直接インタビューすることができた。なお訪問に際しては、国際交流基金の下郡先生にも一部ご同席いただいた。

### 4-3. 現地日本コミュニティへの参加

- \* 第4回 日本フェスティバル「日本の秋」(11月17日 於「鉄道員文化会館」)
- \* ウラジオストク日本人会忘年会・総会への参加、アイスマラソン激励会の企画・運営等
- \* 総領事主催 新春賀詞交歓会(1月18日 於 総領事公邸)

\* 総領事館主催 生け花ワークショップ (5月17日 於 極東大 D504 教室)

#### 4-4. 大学来訪日本人への対応

\* 日本人政治学者 大崎巖先生の本学来訪対応 (3月24日~31日)

\* 日露産学合同プロジェクト (イチゴ温室栽培実験) 関係者来訪対応 (5~7月)

### 5. 青年交流事業

---

#### 5-1. 日露合同授業の運営・実施

\* 日本人留学生が多く在籍する本学の強みを生かし、日本語とロシア語の相互学習が出来る場の実現を目指して実験授業を3回行った。

\* 授業の基本的なコンセプトは「学生自身の気づき」。学生同士がピア活動を通して、ネイティブとの実際の対話やネイティブ同士の会話を体験し、既習語彙や文法のリアルな運用方法だけでなく未習事項やフィラーが意識的/無意識的に習得できることを目標に、教師は前に立たず机間巡視や会話のファシリテーションなどの環境づくりに徹した。

##### 【1回目】12月20日「My 今年の漢字」(120分)

\* 30名 (日本学科のロシア人1~4年生、日本学科教師、日本人留学生約15名)

\* 運営にあたっては日本人留学生から大きなサポートを得た (教室準備、書道の補助等)

\* ①「今年の漢字」について概要説明、②5~6人のグループに分かれ、今年はどうな1年だったかを自らの学習言語で話させる。この際、母国語の使用は強く制限しない。③自分の1年を表す漢字1字を決め、グループ内で発表。④書道コーナーに移動し、「My 今年の漢字」をしたためる。⑤事後、参加者からイベントの感想や新たに習得できたことをインタビュー。

\* ロシア側の参加者からは、「知らない漢字やその意味の違いを知って、漢字への関心が増した」「同世代の日本人と話すのは初めてで緊張したが、既習事項を実際に使えて自信につながった」といった意見が多く、日本側からも「学内のロシア語学院(ЦРЯК)では教員以外にロシア人がいないので、学習的な機会と同世代のロシア人と話せてよかった」という声が挙がった。

##### 【2回目】4月10日「より自然な自己紹介を」(90分)

\* ロシア人学生8名、日本人学生10名。

\* 初対面のため、「教科書的ではなく、実際に初めて会う日本人/ロシア人に使える自己紹介」をテーマに設定。

\* ①4~6人に分かれて着席。②母国語で名前と一言コメントだけ自己紹介。③ワークシートを用いて参加者の情報を聞き出す。その際、母国語の使用は制限しない。④作成したシートを基に、自分のグループのメンバーを他グループに紹介する。

\* ロシア人の学生には既習事項を積極的に使用するよう事前に指示を出し、実際に「V ことがある」や「N/V ことが好きです」といった発言も多く出ていた。一方、日本人留学生には、一般的な質問の仕方だけでなく、ロシア人が自然に使う質問の言い方やフレーズを聞き出して覚えるよう伝えてあり、表現の使い分けをロシア人学生に尋ねる姿も散見された。

##### 【3回目】5月29日「許可/禁止、可能/不可能の表現 ~海水浴場で~」

\* 日本学科の1~4年生が約20人、夜間講座の受講生約10人、そして日本人留学生が約15人の合計約45人が参加した。

- \* 日露どちらの学生にとっても複雑で理解しづらいムードやモダリティを実際に使う、または実際に使っている場に立ち会う経験をすることがコンセプト。正しい使い方やそのニュアンス、使い分け等を教え合い、自らがそのポイントに気付くことを目標に授業を組み立てた。
- \* ①海開きに関するニュースを見て、これが何なのか、なぜ行かうかをグループ内で話し合う。②夏休みにしたいことを話し合う。③ワークシートを用いて「したいこと/したくないこと」「しなければならないこと/してはいけないこと」「するといいこと/しなくてもいいこと」に当てはまることを考え、それぞれ学習言語で話させる。
- \* 参加者からは「自分のレベルではまだ日本人と話すには足りないと思っていたが、実際に言葉やフレーズが通じたり直してもらうことで自信がついた」「一つのテーマについて掘り下げて話せて良かった」などと、好評を得ることができた。

## 5-2. ウラジオストク将棋チェス文化交流プログラム受け入れ (3月27日)

- \* 3月下旬にウラジオストクへ訪れていた一行が本学を訪問。3つのグループに分けて、日本学科の授業(1,2,4,5年生)を実際に見学。
- \* 4年生のクラスを見た参加者からは「日本語の能力が予想よりもずっと高い」というコメントがあった。一方、授業を見るだけのパッシブな活動に留まってしまったため、本学の学生と「交流」が出来たかどうかは微妙な結果に終わってしまったように思う。個人的には、次回以降の受け入れでは合同授業をセッティングしてみたい。

## 6. 任地の生活事情

### 6-1. 電気・水・温水の供給状況

- \* 報告者が生活するルースキー島では、1年を通して停電・断水は全くなかった。温水は集中暖房の開始/停止にあわせて11月上旬と5月上旬にそれぞれ3~4日停止したが、それ以外では問題なく使用出来た。市内でも、大規模な停電、断水、集中暖房のトラブルなどは報じられていない。

### 6-2. 生活必需品の調達について

- \* 大学内にはミニマーケットや薬局が土日祝日も含めて営業しており、食料品や洗剤類、文房具、簡単な薬など問題なく調達できた。
- \* 市内に出れば衣料品や雑貨等も購入可能。電気屋ではプリンタのインクを定期的に購入。2月末には市内に大型商業施設がオープンし、買い物の利便性が増した。
- \* 通信関係は、当初は前任者から引き継いだガラケーとポケット Wi-Fi を利用していたが、学内では PC・スマホともに使える無料回線があるためポケット Wi-Fi は解約、携帯電話も個人で持参したスマホにロシアで購入した SIM カードを差し替えて利用できたため、ガラケーも使用しなくなった。通信料は 250 ルーブル/月で、通話 200 分、通信 5GB、SMS200 通。

### 6-3. 衣食住、交通の便について

- \* ウラジオストク市内の主な交通手段はバス。乗車運賃は距離・路線を問わず 23 ルーブル均一。市内の一部地域には路面電車が走っている。
- \* タクシーは非常に便利で、携帯アプリを利用して予約ができ、5~10 分ほどで乗車できる。料金は市内中心部での移動なら 200 ルーブル弱。

- \* 大学から市内へはバス(主に 15 番、77 番)で 40~90 分(渋滞の有無による)。乗車率はいつも高く、朝夕はぎゅうぎゅう詰めになる。タクシーでは 20~30 分で、料金は約 330 ルーブル。
- \* 都市の大きさに比べ自家用車の利用率が高いため、朝晩は慢性的に渋滞が発生している。交通事故も多く、被害も日本と比べて凄惨なものが多い。
- \* 医療機関はルースキー島なら大学病院があるが、診療は 20 時まで。市内には公立・私立ともに多くあり、夜間受付可能などところもある。公立で簡単な処置だけであれば医療費は無料。私立病院は、内容や時間帯で料金にかなり差があるが、大抵は日本の海外保険を利用可能。

#### 6-4. 物価・治安について

- \* 当地の平均賃金 48,470 ルーブル/月(2018 年 10 月現在)を基準にすると、物価は全体的に高い。パン・穀類は全体的に安い、乳製品や食肉加工製品は時期や季節によって変動がある。ガソリンは 2018 年 9 月に最安値で 42.3 ルーブル/L から、2019 年 6 月に 44.3 ルーブル/L まで上昇。
- \* 治安は、体感的には目立ったトラブルは見受けられず、安心して暮らしているが、統計的には日本の平均値より 3 倍犯罪の発生率が高いとされている。実際に、日本人の旅行者がスリにあたり、日本人留学生が変質者に追いかけられたり、酔っぱらった地元住民に殴りかかれるという目に遭っている。油断しないようにしたい。

#### 7. 終わりに

---

- \* 初年度は大変恵まれた環境で従事させていただくことが出来た。学科長やカフェドラの先生方も大変優しく、どの方もいつも気にかけていただいてストレスのない職場環境だった。日本語教育以外の面でも、当地では日本文化関連の行事が多いほか、大学でも日露の合同プロジェクトが動いていたり、興味深い仕事に関わらせていただくチャンスが多かった。
- \* 一方、青年交流事業は多く実施できなかったことが悔やまれる。アイデアを出したものの実現しなかった企画もあった。次年度は是非実現させたい。
- \* ウラジオストクは他地域と比べて市民の日本への関心が高い。日本企業の進出も多く、日本語教育だけでなく日本でのビジネスについてリアルな事情を知ることができるメリットがある。次年度はこれを活かして当地の日本人と本学の学生たちが交流できる機会を更に創出し、本学の評価の向上やニーズの増加等、互恵的な関係の構築につなげていきたい。
- \* 最後に、この 1 年間の活動を支えてくださった在ウラジオストク総領事館、ウラジオストク日本センター、ウラジオストク日本人会、極東連邦大学の教員・職員の皆様、派遣元であり常日頃から細かなサポートをいただいた日露青年交流センターの皆様、よき同僚である日露派遣教師の皆様、その他お世話になった皆様から感謝申し上げます。あわせて、次年度も派遣させていただけるとのこと、本年度にも増して日露の青年交流に貢献できるよう精進してまいります。